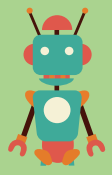
文部科学省：令和４年度　学校卒業後における障害者の学びの支援に関する実践研究事業

『春日井市における民間団体との連携協働による障害者生涯学習プログラムの開発』



第２回 障害者の生涯学習実践研究講座 2022

本事業コーディネーター：田中良三（愛知県立大学名誉教授）

回／月日	テーマ	講師
第１回 7/28（木）	本事業と春日井市の障害者福祉 ①　本事業と実践研究講座について ②　春日井市における障がい者福祉の実態と課題	**田中良三** 愛知県立大学名誉教授 **木全　和巳** 日本福祉大学教授
第２回 8/12（金）	障害者福祉事業所における学び支援 ①　障がい者向け講座の今後について考える ②　Social Inclusion 学びは人生を豊かにする生きるとは楽しいこと	**松田　強志** 総合福祉センター所長 **治郎丸　慶子** 社会福祉法人まちスウィング理事長
第３回 8/24（水）	余暇支援 ①　春日台特別支援卒業生サポート ②　やってみよう	**林　ともみ** 春日台特別支援学校同窓会サポートチームリーダー **田中　克也** 春日井市地域活動支援センターdeco boko BLUES 代表
第４回 9/8（木）	スポーツ支援 ①　春日井ドリームサッカーフェスティバル ②　現代社会において、表現の場の必要性を考える ～ダンスで得られる効果をもとに～	**伊藤　貴治** FC.FERVOR **高橋　里志** D-high Dance Studio 代表
第５回 9/28(水) **＊会場：大ホール**	**公開講座** 「障害者の生涯学習支援と行政・公民館の役割」 **辻　浩**　名古屋大学教授	
第６回 10/12（水）	まとめ（発表）	**田中　良三** 愛知県立大学名誉教授

＊場所：春日井市総合福祉センター　小ホール　（春日井市浅山町１丁目２番61号）

＊時間：10：00～12：00（受付９：30～）

＊修了書：規定の回数および提出物など要件を満たした方には、今後修了書を検討しています。

＊新型コロナウィルス感染拡大防止のため、マスク着用、入り口で消毒のご協力をお願いいたします。当日体調の悪い方の参加はご遠慮ください。

主催：NPO 法人春日井子どもサポートKIDS COLOR・春日井市・春日井市教育委員会
お問い合わせ：NPO 法人春日井子どもサポートKIDS COLOR 代表　志村美和（本事業代表）
＜携帯＞090-4163－4365　＜メール＞kpqnq908@yahoo.co.jp

文部科学省：令和4年度　学校卒業後における障害者の学びの支援に関する実践研究事業
「春日井市における民間との協働による障害者生涯学習プログラムの開発」

第２回 障害者の生涯学習実践研究講座
（2022）
プログラム集

講座の趣旨と課題 ―― 1

プログラム ―― 3

第1回　本事業と春日井市の障害者福祉

① 講師 ： 田中良三（愛知県立大学名誉教授） ―― 4

② 講師 ： 木全和巳（日本福祉大学教授） ―― 10

第2回　障害者福祉事業における学び支援

① 講師 ： 松田強志（春日井市社会福祉協議会・総合福祉センター所長） ―― 16

② 講師： 治郎丸慶子（社会福祉法人まちスウィング理事長） ―― 20

第3回　余暇支援

① 講師： 林ともみ（春日台特別支援学校同窓会サポートリーダー） ―― 25

② 講師： 田中克也（地域活動支援センター：deco boko BLUES 代表） ―― 31

第4回　スポーツ支援

① 講師： 伊藤貴治(FC.FERVOR) ―― 35

② 講師 ： 高橋里志（D-high Dance Studio 代表） ―― 39

第5回　障害者の生涯学習支援と行政・公民館の役割 ―― 45

<公開講座>　講師 ： 辻　浩（名古屋大学教授）

第6回　まとめ ―― 50

（資料） ―― 52

文部科学省・学校卒業後における障害者の学びの推進に関する有識者会議
『障害者の生涯学習の推進方策について―誰もが，障害の有無にかかわらず共に学び，生きる共生社会を目指して―（報告）』（2019 年 3 月）

編集後記 ―― 80

Ⅲ．講座で学んだこと

第１回　本事業と春日井市の障害者福祉

第 1 回は、まず、本事業のコーディネーターの田中良三氏から委託事業の趣旨と本講座の目的について話があった。田中氏は、文部科学省「学校卒業後における障害者の学びの推進に関する有識者会議」のメンバーである。障害者が一生涯を通じて教育や文化芸術、スポーツなど様々な機会に親しむことができるよう、福祉や労働も含めた関係施策を連動させながら支援していくことの重要性について会議を重ね、『報告書』としてまとめられている。

2021 年度から春日井市が『春日井市における民間団体との連携協働による障害者生涯学習プログラムの開発』というテーマで文科省委託事業を開始愛た。その一環として障害者の生涯学習実践研究講座を開催している旨が説明された。昨年度の講座は①学校卒業後における知的障害や発達障害をもつ青年期の人たちの学びとは何か②「生涯学習」を学校卒業後だけに捉えず、乳幼児期から学齢期、成人期、老年期に至る生涯にわたる学びとして捉える、という内容で行われたこと、今年度の講座では昨年度の内容を踏まえつつ、春日井市内における学校卒業後の学びや余暇に取り組む障害者福祉事業所などの実践を「生涯学習」の視点で議論を深めていくことが示された。

日本福祉大学教授の木全和己氏は、長年にわたり、春日井市の障がい者施策推進協議会の副会長、会長を務め、春日井市障がい者総合福祉計画作成に尽力されてきた。氏からは春日井市の障害福祉についての現状と課題についての話があった。

木全氏は「生活の安定がないと学びに繋がらない」ということを課題とし、「第５次春日井市障がい者総合福祉計画」について説明があった。計画は、①障害者権利条約の理念の尊重②社会のあらゆる場面におけるアクセシビリティの向上③当事者本位の総合的かつ分野横断的な支援④障がい特性、複合的困難等に配慮したきめ細かい支援という基本的視点を確認しながら、（１）地域における生活支援の充実　（２）障がい児支援の充実　（３）障がいに対する理解の促進を重点目標としている。

また、木全氏は今後の課題として、①相談支援体制の強化②地区割りと資源の確保③療育体制の不十分さ④精神障がいなどの本人参加の支援⑤保護者の高齢化への対応の５つをあげられた。

最後に、当事者を真ん中に　共事者として　①学びあうこと②つながり合うこと③自治を、と締めくくられた。

第２回　障害者福祉事業における学び支援

春日井市社会福祉協議会総合福祉センター所長の松田強志氏からは、現在総合福祉センターで行っている障がい者講座についての現状と課題についての話があった。障がい者講座を実施する根拠として第 5 次障がい者総合福祉計画では、障がいのある人の文化芸術、スポーツ活動への参加支援が記されていること、また計画のために行われた当事者アンケートの中で、「自分の楽しみに使う時間をどのように過ごしていますか」という問いに対し「テレビを見る、買い物に行く、ゲームをする、レストラン・喫茶店に行く、散歩をするという結果だったので、文化芸術講座、スポーツ講座等交流事業への参加を余暇活動の選択肢として加えてもらいたい、といくつかの障害者向け講座を企

画している。課題としては、①参加者が固定的で少ないこと ②参加者のニーズに合っているか、新しい講座メニューの開発、講座協力者の確保 ③送迎サービスはないので、保護者の送迎がないと交通アクセスが不便を揚げ、その上で今後の展望として、①土日の余暇時間を楽しんでもらいたい②友だちや知り合いと参加したり、新たな友だち作りの場、ボランティアグループとのつながりを深めてほしい③講座をサポートする人の確保④障害者のニーズを掘り起こしていきたいと話された。

社会福祉法人まちスウィング治郎丸慶子氏からは、「学びは人生を豊かにする　生きるとは楽しいこと」というタイトルで話があった。人それぞれに「楽しい」は違う。一人一人のアセスメントをしっかりとして作業の中でも余暇活動の中にも「学びは楽しい」が散りばめられている。学ぶと可能性が広がり、やってみることで社会性が芽生える、緩やかなルールの下で仲間と身体を使って競い合う、遊ぶ等の環境を作る、と法人の実践を報告された。

まちスウィングは「0歳から100歳までずっと一緒に街で幸せに暮らす」social inclusion をコンセプトに更なる成長と共生社会の持続と創造を図っていくために令和 6 年度に“ノキシタプレイス”（こどもから高齢者までごちゃまぜのまち。ウェルネスなまちづくり）をオープンさせる。その中に障がいがあってもなくても「まち」に暮らし、みんなが笑顔になる人生を力を合わせて作っていくための「まちづくり部会」を創設する、と話をされた。

第 3 回　余暇支援

春日台特別支援学校同窓会サポートチームリーダーの林ともみ氏からは、学校卒業後も、本人だけでなく、保護者も仲間と会う機会が減り、不安な気持ちになることから困ったときに相談できるように学校とつながり、そこに先生方も気軽に集まれるかいとして同窓会サポートチームがあるとの話があった。同窓会発足当時は「親の会同窓会」という名称だったが、卒業生である同窓生が主役となれるようにと「同窓会サポートチーム」に名称を変更した。活動としては、総会から始まり、ウオークラリーなど体を動かすことから音楽イベント（ムーパ）のような芸術に触れる会も開催されている。まとめとして、何歳になっても母校に行けることを楽しみにしている卒業生も多く、それぞれにやりたいことがスポーツ、創作活動、勉強等多様な分野を学べるチャンスが母校にあるといいな、と保護者達でサポートしている。今後は卒業生がもっと主体的になって同窓会活動を運営できるように、そして世代を超えた卒業生がつながりを感じることができるようにサポートしていきたい、と話された。

続いて、地域活動支援センターdeco boko BLUES の田中克也氏の活動報告があった。「今の障害者のニーズは何か？」ということを大事にし、そこから始める。彼らが必要としていることは、＝普通の若者と一緒。「学び」の要素！と捉えられている。

- 友達と遊びたい
- 遠くへ行きたい
- 管理されるのは嫌
- 話したくてたまらない
- 刺激が欲しい
- ふざけたい
- 彼氏彼女が欲しい、結婚したい
- 認められたい
- お金を使いたい
- 日常と違うことをやりたい

土日祝の利用から始めたが、平日の利用に繋がったケースとして、所属している事業所が合わない、次の事業所が見つかるまでの「つなぎ」として利用したことによって事業所の比較対象となり、当事者の選択肢を広げる意味で複数の事業所の利用はメリットがあると言われた。

deco boko BLUES は「何かしなければならない」場所ではないことが、彼らにとって気安さが感じられ、日常の悩み相談を受けることがあると言う。そこにも彼らが自分を守る知識としてもっと「学ぶ機会」が必要なのではないか、と指摘があった。最後に、利用者のつぶやき「あー。明日も仕事。頑張ろ」という言葉から deco boko BLUES の活動が明日への元気につながっているのならこれ以上うれしいことはない、と締めくくられた。

第 4 回　スポーツ支援

2021 年度、本事業のスポーツ講座として 3 回、今年度も 3 回開催したサッカー講座についての内容や課題等について報告された。講座の講師は地元春日井市で 30 年以上続いているサッカークラブ「FC.FERVOR」の指導者にお願いし中部大学の学生ボランティアをお願いした。講座の参加者は、市内にある特別支援学校やその卒業生、福祉事業所や保護者団体に呼びかけて集まった人で、参加者の運動レベルや特性に合わせてその場でメニューを考えて行った。

昨年度のサッカー講座では、特別支援学校やその卒業生、その他多くに呼びかけをしたが、参加者は少数であった。本事業の連携協議会委員でもある特別支援学校の二人の校長先生から、障害のある人にとって、初めての場、人、他にどんな人が来るのか、という不安は大きく、なかなか「行ってみよう」という気持ちにはつながらないのではないかという意見をもとに、今年度は、特別支援学校と連携し、まずは学校で体験することによって講座への参加につながるのではないか、と課題解決に向けて取り組んだことが成果として挙げられた。学校卒業後の生涯学習を選択していくためには、在学中から継続してやっていることを社会に出てからも続けられる場がある、と認識していく必要があるのではないか。その場を民間事業者によって作られようとしていることが成果として発表された。

D-high Dance Studio の高橋氏からは、表現の場の必要性、ダンスで得られる効果についての話を伺った。同スタジオでは 2016 年から障害者のダンス講座を設立している。

ダンスの特性として、運動能力、表現力、コミュニケーション能力を同時に育むことができる。また、ダンスは特別な場所や道具がなくても手軽に始めることができる。会話がなくても、身体の動きや表情だけでダンスの動きを伝達できることが年齢や国境、障害の有無に関係なく楽しめるのも魅力の一つである。

課題として、①障害者が受講できるダンスレッスンが少ないこと②障害者が安全に自分らしく踊ることを指導する専門的知識を持った指導者が少ない③ダンススクールとダンスがしたい障害者を繋げるツールがない、ということを挙げられた。

第 5 回は、広く一般の人にも知っていただきたく、下記のようにチラシを作成し、特に地域福祉課の協力を得て民生委員さんにも呼び掛けた。

文部科学省令和４年度　学校卒業後における障害者の学びの支援に関する実践研究事業

『春日井市における民間との協働による障害者生涯学習プログラムの開発』

第２回障害者の生涯学習実践研究講座 2022

春日井市と NPO 法人春日井子どもサポート KIDS COLOR は、令和３年度からこの事業に取り組んでいます。障害のある人が学校を卒業した後の「学び」の機会や「交流」の場はどうなってしまうのでしょうか？障害のある人もない人も共に学び、共に生き、夢や希望をもって社会生活を送るためにはどうしたらよいでしょうか？みなさんで障害者の生涯学習の推進、共生社会の実現について学びあいましょう！

公開講座

『障害者の生涯学習支援と行政・公民館の役割』

日時：９月 28 日（水）10：00～12：00（受付開始９：30～）

場所：総合福祉センター大ホール

申し込み方法：この用紙に名前・所属・電話番号を記入し、FAX（0568）88－6873 してください。

＊新型コロナウイルス感染拡大防止のため、マスク着用、入り口での消毒のご協力をよろしくお願いいたします。

また、当日体調のすぐれない方は、参加をご遠慮ください。

☆　syougaigakushu　☆ syougaigakushu　☆　syougaigakushu　☆ syougaigakushu　☆ syougaigakushu ☆

＊何人かまとめて申し込みができます

	お 名 前	所 属	電 話 番 号
1			
2			
3			
4			
5			

☆　syougaigakushu

syougaigakushu　☆　syougaigakushu　☆　syougaigakushu　☆

主催：春日井市/春日井市教育委員会/NPO 法人春日井子どもサポート KIDS COLOR

お問い合わせ：NPO 法人春日井子どもサポート KIDS COLOR 代表　志村　美和（本事業代表）

＜携帯＞090-4163－4365　＜メール＞kpqnq908@yahoo.co.jp

第５回　公開講座　障害者の生涯学習支援と行政・公民館の役割

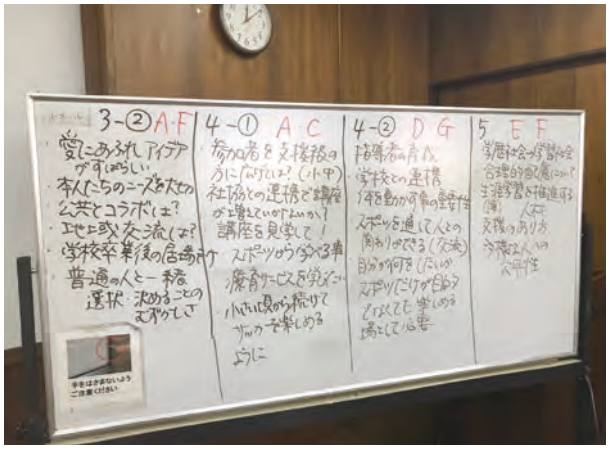
第５回は、社会教育の研究者である名古屋大学教授の辻浩氏から学んだ。「生涯学習」の３つの役割、①長寿社会・自由時間の増大の中で②生涯職業能力開発のために③社会的排除の克服・地域課題のために、のうち、特に③について、社会的に光が当たってない地域の存在、地域の活性化を担う住民参加に導く生涯学習、自分たちで自分たちの課題を考える自己決定学習について指摘された。

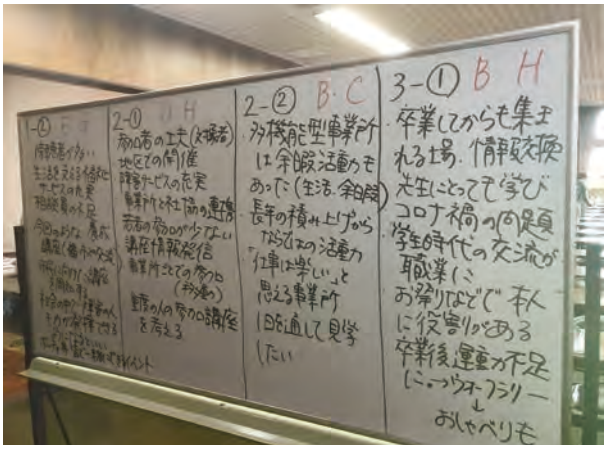
2006 年の教育基本法改正の第４条（教育の機会均等）、2016 年の権利条約と障害者差別解消法における合理的配慮についての必要性について指摘された。

また、障害者の基礎的理解として、医療モデルから社会的モデルへ、とされていることの理解の必要性、障害者の生涯学習を推進するための人材育成の在り方についても述べられた。本事業で春日井市が目指す「障害者の生涯学習専門支援員」を養成することが実現されれば、おそらく日本で最初になるのではないか、という話もあった。終わりに、「障害のある人の社会への参加が地域を明るくする」と全国の取り組みを紹介され、今後、学校から社会への移行期における様々な取り組みの可能性について示された。

第６回　まとめ

第６回のまとめでは、第１回～第５回までの話を振り返り、本事業コーディネーターの田中良三を中心に、本講座で学んだことや課題点などについてグループワークで話し合い、発表してもらった。





全６回の講座終了後､受講生には＜本講座を振り返って＞｢まとめのレポート｣を提出してもらった。

＜本講座を振りかえって＞ まとめのレポート

受講生番号（　　）

氏名　（　　）

１.この講座目標の達成度について、あなたにとって該当するもの一つを選んで○をつけてください。

・十分に達成した　・ほぼ達成した　・あまり達成していない　・全く達成していない

２.理解できたと思うことを五点あげてください（箇条書き）

①

②

③

④

⑤

３.疑問点など、よくわからないと思うことを三点あげてください（箇条書き）

①

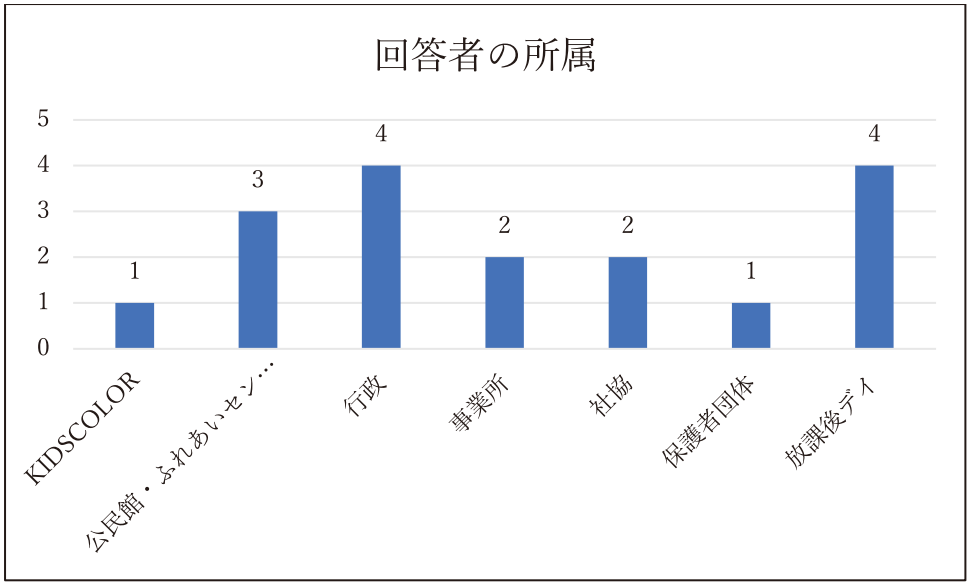
②

③

４.「学校卒業後の障害者の学習支援」について、今後、春日井市に置いて取り組んでほしいと思うことについて書いてください。（箇条書き）

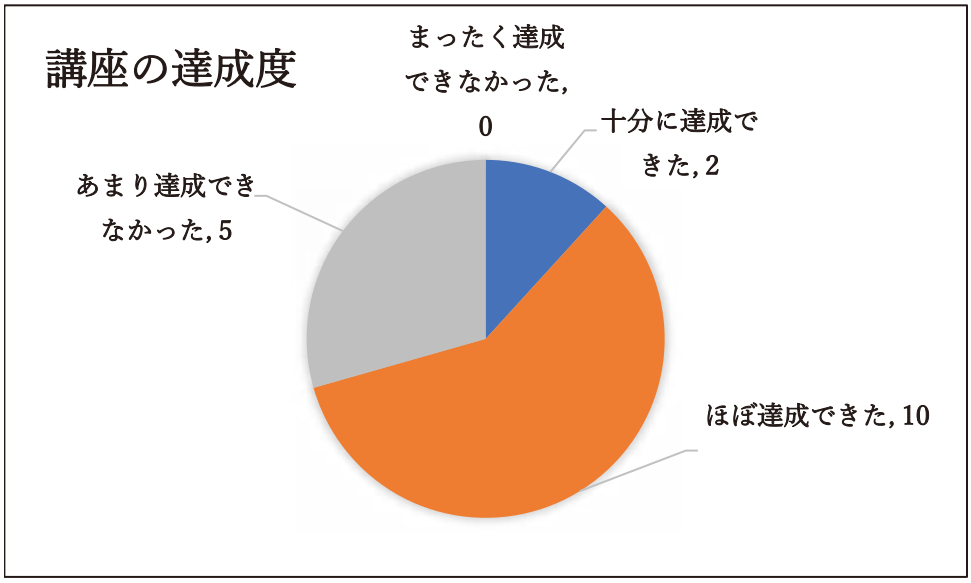
５.その他（自由に書いてください）

まとめのレポート提出者 17 名



以下、提出された「まとめのレポート」をまとめたものである。

1．この講座目標の達成度について、あなたにとって該当するもの一つを選んで〇をつけてください。



２．理解できたと思うことを五点あげてください（箇条書き）

①卒業後の保護者間、同窓生のつながりの大切さ ②障がい者が地域に参加すると明るくなる ③ダンスが育む特性のすばらしさ ④障がい者が地域に参加することの難しさ ⑤指導者の育成の難しさ
①学歴社会+学習社会 ②学習に対する平等不平等 ③障害と認定されていなくても生きにくいと感じる社会 ④学校から社会への移行期の学びの大切さと充実をめざして ⑤合理的配慮の必要性
①楽しみながら学習を続ける ②相手の出来そうなことを引き出し共感し合う ③自立して生活できるように地域で支え合う ④本人や家族が前向きに生きていけるように関わりを継続していく気持ちを持つ
①参加したい講座があっても送迎してくれる人がいないと参加できない人も多い。 ②友達ができなかったり、学校を卒業後繋がりがなくなることが多い。 ③障がいを持つ方本人だけでなく、保護者への支援も不可欠である。 ④一度つまずくと、立ち直るのが困難であることが多い。 ⑤障がいといっても幅広く、誰もが過ごしやすい環境を目指す必要がある。
①春日井市における障がい者福祉の実態と課題 ②障がい者向け講座の今後について ③春日台特別支援学校同窓会サポートチームの存在 ④地域活動支援センターdeco boko BLUESの活動 ⑤障がい者の生涯学習支援と行政、公民館の役割
①学校を卒業した障がい者の高齢化が進んでいる。 ②生涯学習の視点から、社協との連携でスポーツ、講座が増えた。 ③障がい者の生活全般にわたる、相談員がすくない。 ④本人のニーズを大切にする。 ⑤スポーツ等指導者の育成に力を入れる。
①春日井市における障がい者施策の現状、実態やその評価と課題 ②障がい者の余暇活動の現状や推進への施策など ③春日台特別支援学校卒業後の同窓会活動 ④ダンスやサッカーなど市民団体における障がい者の余暇活動の現状 ⑤障がい者の生涯学習支援において公民館などの行政の役割
①ダンスなどの体を動かすことで人とふれあえること。 ②スポーツだけでなくその障害の有無を問わず、様々な人と関わりを持てる場があることを広げる必要がある